

75 シロエリオオハム (アビ目)

Gavia pacifica

兵庫県ランク: 調

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:

種の概要

シベリア北東部からアラスカ、カナダなどで繁殖する。繁殖後は太平洋の両岸に渡り、越冬する。日本には秋に渡来し、北海道、本州、四国、九州の沿岸海域などで越冬する。外海や内海に生息し、稀に内湾、河口、沿岸近くの湖沼などにも飛来する。潜水して魚類を採食する。瀬戸内海の一部の島で行われている鳥持網代漁(アビ漁)では、本種がよく利用されている。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、天売島、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、伊豆諸島、小笠原群島、オホーツク海、日本海北部、日本海南部、太平洋北日本沖、太平洋本州中部沖、太平洋南日本沖、伊豆諸島沖、東シナ海



写真提供：出口敦司

(性別：不明)

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

神戸市、明石市、西宮市、★洲本市、★豊岡市、加古川市、高砂市、丹波市、★南あわじ市、★淡路市

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ね特殊 ぐら休 環息 境・	局地的 繁殖	希少
○	○								

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に1-翌6月に記録がある。古い記録は、全てオオハムとされているため、正確な生息状況は不明であるが、残された標本から、オオハムよりシロエリオオハムの方が多かったと考えられている。近年は極めて稀に沿岸で記録される程度に過ぎない。海上での生息状況は不明である。重油や化学物質の流出による被害で、海上の群れが大きな打撃を受けることがある。

保護上の留意点

生息海域の海洋環境の保全が重要。また、漁網やはえ縄などによる捕獲の被害に遭うことがあるので、地域によっては漁業者との調整が必要。併せて、生息海域の海洋環境の保全が重要。特に、重油や化学物質の流出などによる海洋汚染は、その生存に致命的な結果をもたらすため回避する努力が必要。